# 園芸科（生物活用）学習指導案

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 月　日 | 平成22年1月29日（金） |
| 園芸科 | 1年1組 | 1年1組教室 | | 時　限 | 2，3，4時限 |
| 単元 | 第1部　園芸の活用　第2章　草花の栽培と活用<br>4　フラワーデザイン | | | 指導者 | 教諭1名・社会人講師1名・実習教諭1名 |
| | | | | 教科書 | 生物活用　p37～ |
| | | | | 発　行 | 農文協 |

| | |
|---|---|
| 単元目標 | フラワーアレンジメントの手法を学び，ブーケやコサージを作成することにより，「草花」教科への興味・関心を高める。 |
| 指導計画 | 1　フラワーデザインとその活用<br>2　アレンジメントの基本とバリエーション<br>3　フラワーアレンジメントの実際<br>**4　ブーケとコサージとその作り方（本時）**<br>5　リースとその作り方<br>6　ドライフラワーとその利用<br>7　押し花とその利用<br>8　生け花とその活用 |
| 本時目標 | ・フラワーアレンジメントの手法を学び，ブーケやコサージの作成に欠かせない草花の処理方法を理解する。［知識・理解］<br>・「ブートニア」の作成について基本的技術を身に付け，テーピングや組立を適切に行う。［技能・表現］ |
| 準備資料 | 「生物活用」教科書・プリント・はさみ・ワイヤー（22，24，26，28番）<br>フローラルテープ・クスノキの葉・バラの花・バケツ |

| | 指導内容 | 学　習　内　容 | 学習形態 | 時間 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|---|---|---|
| 導入 | 挨拶，出席確認<br>プリントの配布<br>学習内容の説明 | 道具を準備する。<br>ブーケとコサージとその作り方の手法を学び作成に欠かせない草花の処理方法を知る。 | 一斉学習 | 25 | ・道具の数は足りているか。<br>・学習内容は的確に伝わったか。 |
| 展開 | リボンの作成 | 5ループ2ストリーマのリボンの作成をする。 | 個別学習 | 25 | ・リボンの表裏に注意してリボンワークを行う。 |
| | ワイヤリング<br>ピアスィングメソード・ヘアピンメソード | バラの花とクスノキの葉を使い，ピアスィングメソードとヘアピンメソードの手法を復習しながら行う。 | | 25 | ・バラの花には水揚げを行う。<br>・必ず手本を見せてから実習に取りかかる(評①，②) |
| | テーピング<br>パーツの作成 | 花材処理後のテーピングを行う。 | | 20 | ・手法の正確さに特に注意する(評③) |
| | コサージの組立<br>リボンの取り付け | 教師が作成するコサージの作り方を観察した後，作品の作成に入る。 | | 35 | ・机間指導をして見通しの立たない生徒への助言を行う。 |
| まとめ | 学習内容の確認<br>次回の予告 | 学習内容をまとめる。 | 一斉学習 | 10 | ・本時の学習内容のまとめをする。<br>・次回の予告をする。 |
| | 自己評価<br>片付け | アンケートを作成する。<br>片付けを行う。 | 個別学習<br>一斉学習 | 10 | ・アンケートの時間が十分に取れるようにする。 |

| | |
|---|---|
| 評価 | ①手法についての基本的な技術は身についているか（基礎・基本を覚えるために独創性は必要としない）。［技能・表現］<br>②ピアスィングメソード（バラの花に行う）とヘアピンメソード（クスノキの葉に行う）の違いが分かり，ワイヤリングの手法を理解できたか。［知識・理解］<br>③フローラルテープによるテーピングの方法は適切（ワイヤーが見えないこと，しっかりテープを伸ばすこと，はさみでテープを切らないことなど）であったか。［技能・表現］ |